

臨床医が臨床検査部門に期待すること

岩田 敏

第62回国立病院総合医学会
(平成20年11月12日 於東京)

IRYO Vol. 64 No. 2 (115-117) 2010

要 旨

臨床医が患者を診察し、適切な診断と診療方針を決定する上で、臨床検査のデータは重要な情報となる。したがって毎日の診療の中で臨床医が臨床検査に期待する部分は大きく、とくに検査の精度、迅速性に関しては、高いレベルが求められることになる。これらのうち精度に関しては、どの臨床検査部門も一定以上のレベルを維持することが必須であり、公的機関による精度管理が定期的に行われているが、質のよい標本作成が求められる病理検査部門、超音波検査などの生理検査部門、血液像や骨髓像を読まなければならない血液検査部門、検体処理、培地からの釣菌、菌の同定を行わなければならない微生物検査部門等においては、検査技師個人の技術や資質が直接検査の精度に関わることになるため、優秀な人材の育成が重要なポイントとなる。また迅速性に関して、迅速な結果報告は迅速かつ適切な治療の開始に結びつくことになるのは当然のことであり、とくに急性疾患である感染症や循環器疾患などでは重要な部分となる。微生物検査などのように、結果報告までにどうしても一定の時間がかかってしまう検査の場合、異常値や、塗抹・染色検査陽性、血液培養陽性、結核菌 PCR 陽性などの重要な情報は、途中経過も速やかな報告が重要である。一方、臨床医からの急な検査依頼に対しては、臨床検査部門のちょっとした工夫や努力でできることなら、ぜひ柔軟な対応をお願いしたい。臨床検査の外部委託についてはメリットとデメリットを十分に考慮した上で導入することが重要である。

キーワード 臨床検査技師、検査の精度、検査報告、コミュニケーション

はじめに

臨床検査の多くは元来医師・歯科医師が行っていたものであったが、検査の多様化とともに分業化が進み、現在の医療に臨床検査は不可欠の存在である。臨床医が患者を診察し、適切な診断と診療方針を決定する上で、臨床検査のデータはきわめて重要な情

報となっている。したがって毎日の診療の中で臨床医が臨床検査に期待する部分は大きく、とくに検査の精度、迅速性に関しては、高いレベルが求められることになる。また分業化が進む中、チーム医療としての密接なコミュニケーションと柔軟な対応が臨床検査部門に求められている（表1）。

国立病院機構東京医療センター

(平成21年12月3日受付、平成22年2月12日受理)

Expectations from Medical Practitioners to Clinical Technologists

Satoshi Iwata, NHO Tokyo Medical Center

Key Words: medical technologist, quality control, laboratory test report, communication

表1 臨床医が臨床検査部門に期待すること

- ・質の高い検査
- ・迅速な報告
- ・密接なコミュニケーションと柔軟性
- ・臨床検査の質の維持
- ・病院診療機能の支援

精度の高い検査

検査の精度に関しては、どの臨床検査部門も一定以上のレベルを維持することが必須であり、公的機関による精度管理が定期的に行われている。とくに質のよい標本作成が求められる病理検査部門、正確な読影能力が求められる超音波検査などの生理検査部門、血液像や骨髄像を読まなければならない血液検査部門、検体処理、培地からの釣菌、菌の同定を行わなければならない微生物検査部門等においては、検査技師個人の技術や資質が直接検査の精度に関わることになるため、優秀な人材の育成が重要なポイントとなる。種々の臨床検査に関わる学会では、さまざまな資格や認定制度を作り、優秀な臨床検査技師育成と専門性向上のために努めている（表2）。このような制度を利用して、目にみえる形で臨床検査技師の能力を評価し、臨床現場に提示していくことはきわめて重要である。なぜならば臨床医として臨床検査技師の技能や能力を判断する上で、客観的に判断できる重要な基準となるからである。臨床検査技師も、臨床検査技師を育てる病院の管理者も、このような資格認定取得に対して積極的に取り組むべきであり、資格を取得した技師に対しては、職務上あるいは給与規定上何らかのインセンティブが与えられるような制度があってもよいのではないかと考えている。

表2 臨床検査技師の認定資格

細胞検査士（日本臨床検査医学会、日本臨床細胞学会）
 超音波検査士（日本超音波医学会）
 認定血液検査技師（日本検査血液学会）
 認定輸血検査技師（日本輸血学会）
 認定一般検査技師（日本臨床検査技師会）
 認定臨床微生物検査技師（日本臨床微生物学会）
 緊急臨床検査士（日本臨床検査医学会）

検査・検査報告の迅速性

検査の迅速性、検査報告の迅速性に関しては、迅速な結果報告が迅速かつ適切な治療の開始に結びつくことになるのは当然のことであり、とくに急性疾患である感染症や循環器疾患、救命救急医療の現場などでは重要な部分となる。また外来診療においては、緊急でわかる検査結果を踏まえて入院治療か外来治療かの判断も含めてその場で治療方針を決定していくことになる。最近検査機器の進歩により、各種検体検査の結果が判明するまでの時間はかなり短縮してきたが、微生物検査などのように、結果報告までにどうしても一定の時間がかかってしまう検査もある。このような場合、異常値や、塗抹・染色検査陽性、血液培養陽性、結核菌PCR陽性などの重要な情報は、途中経過でも速やかな報告が重要である。

たとえば化膿性髄膜炎の患者が入院した場合、当然髄液検査が行われるが、髄液細胞数、髄液糖、髄液塗抹・グラム染色、髄液中細菌抗原迅速診断などの結果が速やかに報告されることにより、適切な抗菌薬による治療を速やかに開始することができる。また、救急診療を行っている医療機関においては、結核病床を有していなくても、結核の疑いのある患者が救急患者として入院することがしばしばおきる。このような場合には、速やかな喀痰の抗酸菌検査（塗抹鏡検、PCR検査）により、鑑別診断を速やかに行うことで、適切な隔離予防策（陰圧個室に隔離、N-95マスクの着用など）、抗結核薬による治療開始が可能となる。

日常臨床の中で、臨床検査を提出した医師は、常に一刻も早く検査結果を知りたいものなのである。

密接なコミュニケーションと柔軟な対応

チーム医療の中で、密接なコミュニケーションと柔軟な対応というのは、部門間あるいは各部門内において、どの部門でも重要視される事柄である。

時として、臨床医からの検査依頼の中には、どうしても今日中に検査をお願いします、明日までに結果を出してください等々、かなり無理な依頼が来る場合もしばしばあると思われる。このような場合、物理的に無理な要求、たとえば今朝提出した便培養の結果を夕方までに出して欲しい等々は説明の上お断りいただいて結構であるが、臨床検査部門のちょ

っとした工夫や努力でできるなら、ぜひ柔軟な対応をお願いしたいと考えている。たとえば、検査の予定枠を越えた超音波検査の依頼への対応や、検査予定日以外のウイルス抗体価測定などである。こうした依頼は検査技師の時間外労働や試薬の無駄につながる場合もあるが、それ以上に臨床医にとって患者への迅速な対応ができるというメリットが大きいからである。たとえば腹痛・嘔吐などの腹部症状に対する腹部超音波検査は、治療に緊急を要する虫垂炎、腸重積、イレウスなどの鑑別診断に重要であるし、麻疹、風疹、水痘、ムンプスに対するIgM抗体価やIgG抗体価の測定は、隔離予防策の決定や曝露後の感染防止対策の決定に役立つ。また前述したとおり、微生物の塗抹・染色検査陽性、血液培養陽性、結核菌PCR陽性などの重要な情報は途中経過でも速やかな報告が必要であるし、血液生化学的検査の正常値から大きく外れた異常値なども至急報告していただきたい。検査方法や正常値に変更があった場合も、臨床医への速やかなフィードバックが必要である。

臨床医からみた臨床検査の 外部委託

近年コスト削減と効率化の観点から、臨床検査の外部委託が国立病院機構も含めた多くの医療機関で推進されており、東京医療センターにおいても検体検査の外部委託が、院内検査室への派遣（院内ブランチャラボ）のかたちで導入されている。私たち臨床医から臨床検査部門の外部委託をみた場合、検体検査の精度管理の点ではまったく問題はなく、病理検

査、血液像・骨髓像、生理検査、微生物検査についても、それぞれ認定資格を持った技師が配置されているので、検査技術や診断能力の点では問題はないと考えられる。一方、検査や報告の迅速性という点では、院内ブランチャラボのかたちで院内に臨床検査部門があれば問題はないが、院外の臨床検査センターに持ち帰りとなる検査項目については一般に結果報告が遅くなる傾向がある。また、臨床医との密接なコミュニケーションと柔軟性という点では、院内ブランチャラボであっても実際に検査を行っている技師の顔はみえにくく、時間外対応、予定外検査への対応等の柔軟性の点ではデメリットの部分が多い。さらに、感染制御チーム（インфекション・コントロール・チーム：ICT）の一員として感染制御活動を行っていくためには、院内ブランチャラボのかたちで院内に微生物検査室があっても、病院感染の発生（アウトブレイク）等の緊急への対応は困難であると考えられる。今後臨床検査部門の外部委託を見直す際には、その辺りを十分に考慮した上で契約を結んでいく必要がある。

おわりに

臨床医が臨床検査部門に期待することは、精度の高い検査、迅速な報告、密接なコミュニケーションと柔軟性である。外部委託した場合の問題点は、臨床医との密接なコミュニケーションと臨床医からの依頼に対する柔軟性にある。

臨床検査部門として最も重要なことは、臨床検査の質を維持し、病院としての診療能力を支えることである。